

令和7年7月8日(火)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき
教室通信 NO,6



『〇〇ならでできるよ!』—『ぼくも!』
『にしない?』—『いいね』
ふわふわ言葉が聞こえてくるかがやき教室

それぞれの「自分の物語」

7月に入りました。強い日差し。湧き上がる入道雲。夏本番が近づいてくると学校では夏休みへのカウントダウンも始まります。この時期、前期の学びのまとめに入っていきます。

先日、かがやきを卒業していく児童がおり、小集団指導の中で卒業について共有しました。ご家庭には面談の中でも学習や生活の状況については話題としてお伝えしていることでもありますが、支援教室の利用期間は原則1年であり、学校生活や学習課題への適応状態を相談させていただきつつ、必要に応じて「期間の延長」という方法をとっています。担任・家庭・本人とも話し合い、学級の中で自分の課題と自立的に向き合うことができる状態となった時に支援教室を卒業ということになります(もちろん、卒業してもかがやきの「支援」が途切れるというわけではなく、必要に応じていつでも相談できます)。

今回、卒業していくA君のことをグループのみんなで共有したのは、こうした事情を子供たちなりに理解して、自分の課題を意識してほしいと思ったからです。

T「今度A君はかがやきを卒業します。」—C「え~!なんで?」

T「どうしてA君が卒業するのか、A君からみんなに伝えてもらいます。」

以上の流れで学習を進めました(事前の個別指導で、この流れはA君とも確認しておいての活動となります)。A君からの話を聞いた後、1年生のときからの課題について、教師が言葉を補いながら説明していきます。そして現在に至るまで、変化や成長があった為卒業していくという話をしました。少し込み入った話でもありましたが、小集団のメンバーが真剣な表情で聞いていた事が印象的でした。もちろんこれはA君の物語で、今かがやきに在籍している個々の事情とは異なり、この先もかがやきを続けていく人もいるという事を補足しました。自分はどうしてかがやきにいて、何を目標にしていくのかという事が、視点を共有しながら分かり、「自分の物語」として話すことができる。そのようなきっかけになればと思います。